

8月29日：CPIの上昇に伴い小幅高

昨日は8月のCPIの上昇によって小売、食品銘柄が買われ小幅高で引けた。

ホーチミン市場のベンチマークであるVN指数は0.14%上昇し、978.59ポイントで引けた。

VN指数は日中で0.4%まで下げる場面もあった。

統計局によると、8月のCPIは7月から0.28%上昇した。これは豚肉の消費が増加したためである。

CPIの上昇は購買力が旺盛で、消費が増えることを示しているといえる。

よってCPIの上昇は小売業や生産メーカーの収益増加をもたらすこともある。

過去3年を見ると、8月のCPIの伸びは弱いだが、小売、食品、飲料セクターの伸びは0.9~2%と堅調だった。

銘柄別にみると、乳業のVNM、ビールのSAB、食品・飲料のMSN、小売りのMWG、ジュエリー販売のPNJなどが相場をけん引した。

これらの銘柄は前日から0.3~3%上昇した。

また通信のFPT、不動産のVIC、銀行のBID、石油・ガスのGASなども上昇し、相場を下支えした。

これら大型株の上昇で、VN30指数は0.34%上昇し、889.13ポイントで引けた。

ハノイ市場では、HNX指数は0.37%下落し、101.94ポイントで引けた。同指数は前日は0.52%下落していた。

両取引所あわせて、出来高は1億5,600万株、売買代金は3.6兆ドン（1億5,530万ドル）だった。

外国人投資家は 2 日続けて買い越し、買い意欲は控えめだが市場のセンチメントにはポジティブな影響があるといえるだろう。

外国人投資家の買越し額は 140 億ドル相当で、水曜日の 400 億ドルからは減少した。

証券会社は市場の短期的な見通しは明るいとしている。

多くの投資家は依然として慎重姿勢を継続しており、市場全体の様相は変わっていないと VN ダイレクト証券 (VNDS) はデイリーレポートで伝えている。

過去数日の流動性の低下から、売り方・買い方双方とも判断を下すのは難しいことが示されたと VNDS は伝えている。

市場に再度資金流入を呼び起こすには、大型株の放出や銀行の外国人株の引き上げなどの材料が必要だろうと同社は見ている。

市場には工業団地や物流などの銘柄にはまだ明るい見通しがあるようだと、タインコン証券 (TCSC) は述べた。

しかしながら、海外市場の不透明感がくすぶっているため、市場は確信を持たずにいると同社は見ている。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Incorporated (JSI) から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。